

令和2(2020)年産なしの管理ポイント(第6報)

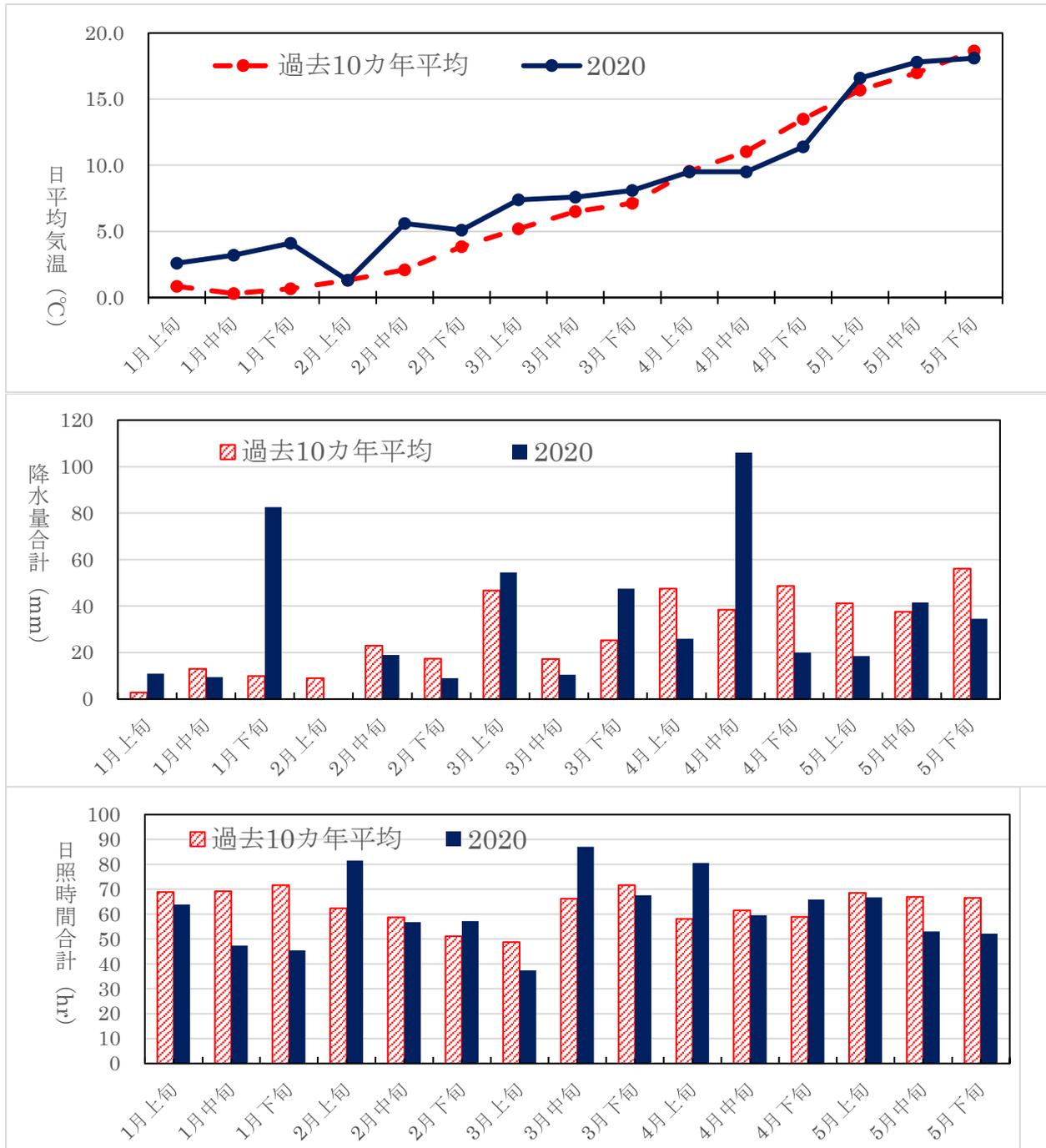
令和2(2020)年6月16日

栃木県塩谷南那須農業振興事務所経営普及部

★今回の重点ポイント

- 着果量の少ない園は、着果量確保に努める。
- 仕上げ摘果は、降ひょう害や凍霜害の被害程度をよく確認しながら行う。
- 着果量の少ない園は、新梢が過繁茂になりやすいので、新梢管理を徹底する。
- 幸水、豊水に黒星病の発生が多いので、防除を徹底する。

1 気象経過(アメダス: 那須烏山)



2 生育状況と今後の生育予測

(1) 結実状況

- ・開花の早い「にっこり」や「新高」、「豊水」は、管内の多くのほ場で平年並の着果量を確保することが難しいと思われる。
- ・開花の遅い「幸水」や「あきづき」は、大部分のほ場で平年並の着果量を確保できると思われる。
- ・開花日は、地区やほ場条件によって、同一品種であっても数日の差があるので、結実状況も一概に上記のとおりではない。
- ・「みつばち授粉」と「人工授粉」を併用したほ場では、「豊水」や「にっこり」でも平年並の結実が得られている。

(2) 果実肥大状況

- ・管内生育診断ほにおける果実横径は、満開後 50 日時点で「幸水」が平年比 92%、「豊水」が同 86%と、平年よりかなり小さいが、回復基調にある。
- ・「にっこり」は、農業試験場の調査結果から平年よりも「幸水」、「豊水」以上に肥大不良だが、回復基調にある。

表 1 生育診断ほの果実肥大状況

品種名	地点	開花盛	果実径 mm			
			測定部	満開後 30日	満開後 40日	満開後 50日
幸水	那須烏山市	4/19	横径	17.4(83)	22.5(84)	28.6(92)
		(-5日)	縦径	15.0(79)	19.3(81)	24.3(89)
	農業試験場	4/18	横径	19.2(85)	24.9(86)	30.7(90)
		(-5日)	縦径	16.5(83)	20.9(82)	25.8(89)
豊水	那須烏山市	4/14	横径		20.8(81)	25.3(86)
		(-7日)	縦径		18.7(77)	22.8(83)
	農業試験場	4/15	横径	17.1(71)	23.1(80)	27.6(82)
		(-5日)	縦径	15.7(70)	20.7(77)	25.0(81)
にっこり	農業試験場	4/4	横径	16.6(70)	25.7(84)	30.7(85)
		(-10日)	縦径	18.4(69)	26.5(81)	30.9(82)

※ 括弧書きは平年比。「-」は早い、「+」は遅いの意。

(3) 収穫期及び果実肥大の予測

- ・農業試験場による予測では、「幸水」の収穫時果実は果実横径で平年比96%と平年よりやや小さい見込みである。
- ・収穫期は、那須烏山市の生育診断ほど「幸水」が平年より4日早く連続収穫が始まり、同3日早く収穫盛（6割終了時）となる見込み。
- ・「豊水」は平年より2日早く始まり、同2日早く盛となる見込み。
- ・「にっこり」は農業試験場で平年より4日早く始まり、5日早く盛となる見込みで、管内でもほぼ同様の傾向と思われる。

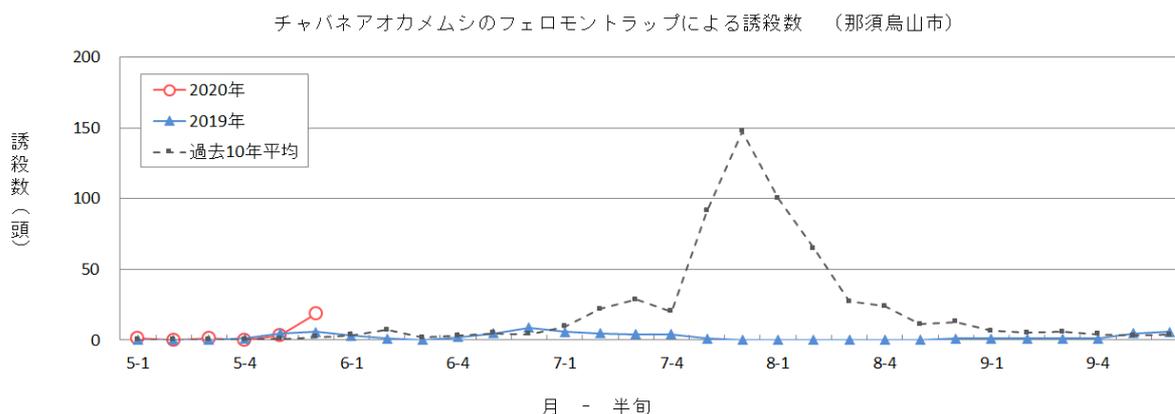
表2 収穫期及び果実肥大の予測（農業試験場 6/1時点）

品種名	地点	果実横径	果重	収穫始	収穫盛
幸水	那須烏山市	84.3 (96)	310 (93)	8/16 (-4日)	8/23 (-3日)
	農業試験場	92.6 (94)	388 (84)	8/17 (-4日)	8/28 (-4日)
豊水	那須烏山市	/	/	9/7 (-2日)	9/17 (-2日)
	農業試験場	95.5 (93)	442 (82)	9/6 (-3日)	9/17 (-4日)
にっこり	農業試験場	/	/	10/10 (-4日)	10/23 (-5日)

※ 括弧書きは平年比。「-」は早い、「+」は遅いの意。

(4) 病害虫発生状況

- ・結実期頃から「幸水」、「豊水」で黒星病の発生が確認され始め、幸水の満開後40日頃まで発生が多かった。
- ・チャバネアオカメムシのフェロモントラップ調査（県農業環境指導センター）の誘殺数（那須烏山市）が5月第6半旬に平年より多くなった（下図参照）。



3 当面の管理ポイント

(1) 仕上げ摘果

- ・平年並の結実が得られている場合は、表3のとおり仕上げ摘果を行う。
- ・着果量が少ない園では、1果そうあたり2果着果させるなどして、できるだけ目標着果量の確保に努める。
- ・開花期に降ひょうや降霜を受けた場合は被害程度をよく確認しながら摘果する。

表3 仕上げ摘果の実施時期と方法（通常の結実状況の場合）

品 種	時 期	具体的方法
幸 水	満開後 50 日まで	①最終着果数の1割増しにする。 ②小玉果、有てい果、変形果、傷病果を落とす。 ③上向きの果実、果梗が短い果実、棚線に掛かっている果実を落とす。 ④棚線や枝に挟まれそうな果実を落とす。
豊 水 あきづき	満開後 60 日まで	
にっこり	満開後 60 日まで	

表4 目標収量と着果数の目安（通常の結実状況の場合）

品種名	収量 (kg/10a)	平均果重 (g)	着果数	
			果/樹冠1m ²	果/10 a
幸水	3,000	400	10	8,500
豊水	3,700	430	11	10,000
あきづき	4,000	500	10	9,000
新高	4,000	500	10	9,000
にっこり	6,000	750	10	9,000

注) 10aあたり着果数は樹冠面積占有率を90%、収量は商品化率90%としてそれぞれ算出した。

(2) 新梢管理

①結実が少ない園や新梢が平年より多く発生している園の処置

- ・定芽から発生した新梢は必要数を残し、不必要な新梢は発生基部から2～3葉程度残し剪除する。
- ・潜芽から発生した新梢は、発生条件の良いものを2～3本程度残し剪除する。
- ・長果枝からの飛び出しが多い場合は、6月下旬～7月上旬に摘心を行い、次年産の短果枝を養成する。

【摘心する際の留意事項】

- ・先端の新梢が順調に伸長していることを確認のうえ処理する。
- ・先端3本程度はそのまま伸ばし、それより基部の新梢を摘心する。
- ・先端の新梢が伸長していない場合はできるだけ先端に近いところから飛び出している新梢を先端に切り替える。
- ・次年産のえき花芽着生と今年の果実肥大を促進するため、6月下旬～7月上旬に新梢が棚面に対して45度になるように予備枝や新梢を誘引する。

②結実が平年並の園の処置

- ・次年産のえき花芽着生と今年の果実肥大を促進するため、6月下旬～7月上旬に新梢が棚面に対して45度になるように予備枝や新梢を誘引する。
- ・夏季剪定は、農薬散布に支障をきたすような極端に混んでいる部分の新梢を剪除する程度にとどめる。

(3) 「にっこり」の品質向上対策（輸出対応）

- ・果実は棚線に触れないように配置し、傷果の発生を抑える。
- ・果肉障害の発生が懸念される園は、カルシウム剤（カルタス、カルプラス等）を満開後10日から2週間間隔で5回程度葉面散布する（「豊水」、「あきづき」

にも有効)。

(4) 病虫害防除

○共通

- ・スピードスプレーヤーは防除効果を高めるため、1.5Mpa 程度の低圧で全樹列間を低速走行するよう努める。

○黒星病

- ・防除指針を参考に散布期間が空きすぎないように注意する。
- ・雨前散布を基本とする。
- ・芽基部病斑は摘み取り、園外に持ち出して土中埋却処分する。

○ニセナシサビダニ

- ・発生のピークは6月下旬～7月上旬
- ・生育が早く増殖率も高いので、症状が出始めたら直ちに防除する。
- ・若葉の葉裏に好んで、生息しているので徒長枝の先端まで薬液が付着するように防除する。

○チャノキイロアザミウマ

- ・比較的発生密度が低く生育ステージがそろっている5月上旬～6月上旬の防除を徹底する。
- ・6月下旬以降も発生が多い場合は、7月上中旬に追加散布

○ナシマルカイガラムシ

- ・第1世代幼虫の発生時期である6月中旬を中心に防除する。

○アブラムシ類

- ・5～6月に発生ピークとなる種が多いので、発生をこまめに確認し発生初期に防除する。

○ハダニ類

- ・5～6月に下草からなし葉に移動してくるので、発生初期に防除する。

○カメムシ類

- ・県農業環境指導センターからチャバネアオカメムシの越冬世代（4～7月に発生）の発生が多い予想が出ているので、園内での発生に注意し、発生を確認したら防除する。

使用する剤によって薬害が発生しやすくなるので、高温時の防除作業はできるだけ行わない。

4 季節予報

(1) 関東甲信地方1か月予報（6/6～7/5） 6月4日気象庁発表

○特に注意を要する事項

- ・期間の前半はかなり気温が高くなる。

○予想される向こう1か月の天候

- ・平年と同様に曇りや雨の日が多い。

○気温、降水量、日照時間の確率

- ・気温 低い10% 平年並20% 高い70%
- ・降水量 少ない40% 平年並30% 多い30%
- ・日照時間 少ない30% 平年並30% 多い40%

(2) 関東甲信地方3か月予報（6～8月） 5月25日気象庁発表

○予想される向こう3か月の天候

- ・ 6月 平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- ・ 7月 期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 8月 平年に比べ晴れの日が多い。

○気温、降水量の確率

・ 気 温	3か月	低い 20%	平年並 30%	高い 50%
	6月	低い 20%	平年並 30%	高い 50%
	7月	低い 20%	平年並 40%	高い 40%
	8月	低い 20%	平年並 30%	高い 50%
・ 降水量	3か月	少ない 30%	平年並 40%	多い 30%
	6月	少ない 30%	平年並 30%	多い 40%
	7月	少ない 30%	平年並 40%	多い 30%
	8月	少ない 40%	平年並 30%	多い 30%

農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！



身支度も
万全に！

- ①農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ②農薬の飛散防止を徹底する
- ③農薬の使用状況を正確に記帳する